

ここがすごいよ、北條五代

その1 人々をまとめるための方法は、戦国時代No. 1

虎のはんこ～虎の印判～

手紙にこのはんこをおすことによって、氏綱の命令だというようになった。地方の領主は、勝手に命令を出せなくなったんだ。
はんこのある手紙を『虎の朱印状』とよんだんだよ。



検地と四公六民

有名な豊臣秀吉よりも早く、土地を調べる検地をしたよ。さらに、五公五民よりも軽い年貢にしたんだ。



税のしくみを変えた

税のしくみを変えたおかげで、地方の領主は、勝手に税を取り立てることができなくなったんだ。



裁判のしくみを作った ～評定衆～

どんな人でも、うったえを起こすことができるしくみだったんだ。また、人々のうったえを広く聞くために、「目安箱」もおいんだ。



大事なことは話し合いで決めた～小田原評定～

たくさんの人と話し合いをして、いろいろなことを決めていったんだよ。時にはなかなか決まらないということもあったけれど、争いや命令ではなく、みんなで話し合っ解決しようと考えていたんだね。
そのころには、めずらしいしくみだったんだ。

早雲が作った家訓廿一箇条(21か条)

「正直憲法にして、上たるをば敬い、下たるをばあわれみ」(第5条)

「上下万民に対し、一言半句にても虚言を申すべからず」(第14条)

だれに対してもうそをつかず、身分に関係なく人々を大切にしようという考えが示されているよ。この考えがあったから、人々も北条氏を信頼していたんだね。



その2 戦国時代に100年も続いたのは、北条氏だけ

戦国時代は、天下統一をめざして兄弟や親子でさえも争いをしていたため、一つの「家」が長く続くことはなかったんだ。それなのに、早雲・氏綱・氏康・氏政・氏直と100年も続いた「家」は、ほかにはない。これは、本当にすごいことなんだ。

ここでは、北条五代の人柄や言葉から、長く続いた秘密を少しだけ探してみよう。

「武にして禅ぜんにゆく人」

(1508年早雲にあてられた文書に書かれていた)

「手際なる合戦にて 夥まがまがし敷き勝利を得る時は、驕おごりの心出で来り、敵あなどを侮り
或あるひは不行儀なる事必ずある事なり。慎つつしむべし。此この如ごとく候そうろうて滅亡の家、
古いにしえより多し。此この心万事ばんじに渉わたる。勝つて胃かぶとの緒おを締しめよといふ古語、忘れ
給たまふべからず。」

→「勝利はほどほどにせよ。勝利し続けると、自らに驕り、敵を侮ることがあるからである。」という意味。

(氏綱「五箇条の御書置 第五条」)

「慈悲じひを専もっぱらとし、民をなづる徳ありて、諸人思おぼいよる」

(北条五代記著者による)

「文を表にし武を裏にす。刑罰けいばつ清らかにして遠近服す。まことに今代てんかむそう天下無双
の覇主はしゅなり」 (あるお坊さんが氏康の人柄について語った内容)

「5歳6歳に候を手元に引き離すべき儀ぎ、親子の憐憫れんびん、何とも弁済べんさいに及およばず」
(氏政が出した手紙)

いろいろな人が、北条氏のことをほめたたえている。領民のことを常に考えて、人々をまとめようとしていることや、上の立場になっても油断せず行動すること、さらには親子の絆についても大切にしていることがよくわかるね。

北条氏が100年続いたのは、戦が強かったからだけではないんだよ。

その3 今も残る北条氏のまちづくり

氏政・氏直のころ、小田原城とその城下町を囲む総構そうがまえとよばれる大きな堀やみぞをつくったんだ。総構の全長は周囲9 km、わかっている部分で幅16m、深さ10m以上の大きさのものがある。底には堀障子ほりしょうじとよぶ、掘り残して造られている障壁しょうへきがある。底にある堀は障子堀しょうじぼりとよばれるつくりがあり、小田原北条氏が多く用いた堀のつくりの特徴とくちょうになっている。この堀があったから、豊臣秀吉も簡単には攻めることができなかつたんだ。そのあとは、今でも見ることができるよ。



北条時代からその名が伝わる町名

500年も前のものが残っているなんて信じられない人があるかもしれない。でも、小田原市のいろいろなところなごに名残りが残っているんだよ。

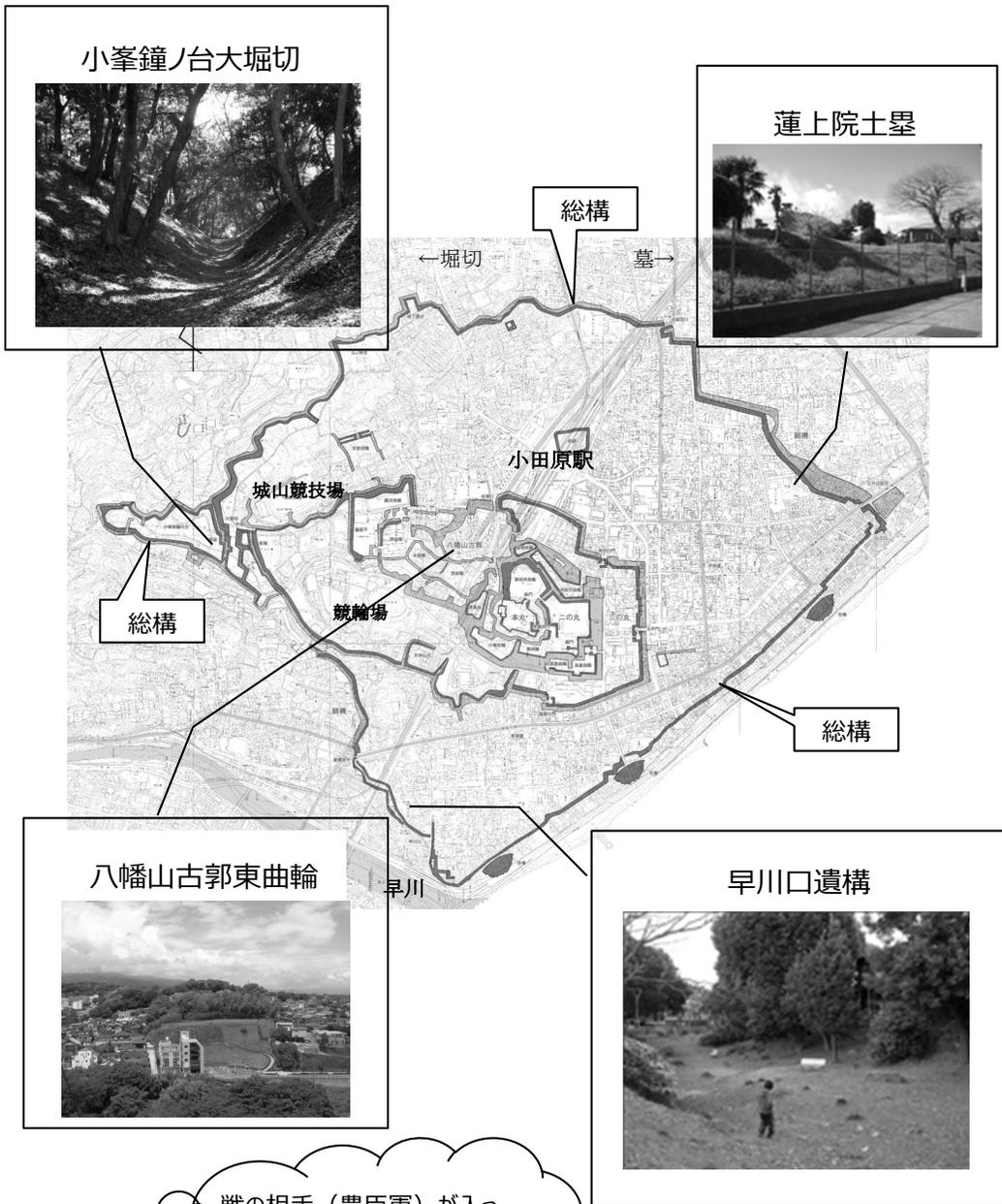
小田原の町は、北条時代につくられた城下町をもとにしていると言われていよ。

今ある道は、江戸時代の道とほとんど同じなんだ。でも、実は、小田原の町の地下に眠る北条時代の町並みは、今とは全くちがう考えでつくられていたことがわかっているよ。

江戸時代の建物などは、今の国道一号線にそって作られていたけれど、北条時代は、1号線ではなく、東西南北に向かつてまっすぐ作られていたんだ。

江戸時代の道、そして、地下に眠る北条時代の町並みのことを考えながら歩いてみるのもいいかもしれないね。

その4 今も残る小田原合戦(北条軍の総構)^{そうがまえ}

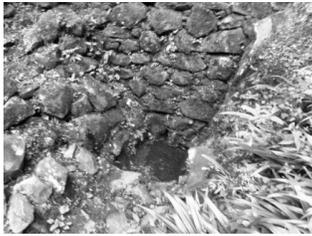


④ 戦の相手(豊臣軍)が入ってこられないように、深い溝を人の力だけで作ったんだ。北条五代を肌で感じることできる場所と言える。

その5 今も残る小田原合戦(豊臣軍の一夜城)

豊臣秀吉が北条氏と戦うために作った一夜城。

現在は、石垣山一夜城歴史公園となっているんだ。当時の面影が残っている貴重な場所だ。



井戸のあと



くず
いしがき
崩れている石垣



いしがき
ばらばらの形の石を積み上げた石垣



一夜城からの景色